

## 2017年度第3四半期決算 <主な質疑応答>

開催日 : 2018年2月8日(ネットカンファレンス)

出席者 : 理事 主計部長 菅井 博之

理事 インベスターリレーションズ部長 田村 達郎

### 第3四半期決算および今後の見通しについて

#### 当期利益および基礎収益の見通しは？

基礎収益は、第3四半期まで堅調に推移しており、底堅いとしている。従い第4四半期についても、若干の上振れはあっても減速することは想定していない。第4四半期には様々な案件の減損テストを実施するが、現時点では大口の損失は想定していない。これらを勘案し当期利益、基礎収益いずれも通期見通しに対し若干の強含みと想定している。

#### その他非資源ビジネスの基礎収益の状況と、今後の見通しについて教えてほしい。

金属事業部門では海外スチールサービスセンター事業が堅調。輸送機・建機事業部門ではリース事業が堅調に推移しているほか船舶事業は底を打ち、建機販売およびレンタル事業はほぼ全世界で好調を維持。環境・インフラ事業部門では大型EPC案件の建設が進捗している。メディア・生活関連事業部門ではJ:COMやSCSK、SHOP CHANNELといった主要事業会社が引き続き底堅く推移している。このトレンドは来期以降も継続し基礎収益の増益基調は今後も続くと見ている。

#### 米国税制改正に関し、来期以降の業績への影響を教えてほしい。

当社は米国で多岐にわたり事業を展開している。黒字会社は法人税率減少により相応のプラスインパクトを想定しているものの、現時点では具体的な数字は持ち合わせていない。

### 個別事業について

#### 鋼管事業の米・非米のビジネス環境と来期以降の見通しについて教えてほしい。

ビジネス環境は第1四半期から大きく変化していない。米国ではリグカウントが安定的に推移しており、やや強含み。一方で非米のアクティビティは依然低調であり、注視していく。来期の基礎収益は今期見通しの75億円を上回るレベルとなることを期待している。

#### TBCについて、分野別のEBITDAの割合はどの程度か？また再編の戦略を教えてほしい。

TBCの卸売・小売・フランチャイズの3分野のうち、EBITDAベースで7~8割が卸売事業。小売事業は原材料価格の高騰を販売価格に転嫁できず苦戦している。今回の再編により、卸売事業の展開を強化するとともに、課題の小売事業においてミシュラン社のノウハウを活用し、小口配送や法人顧客向け、オンライン販売事業の強化による新規顧客の拡大を図っていく。

### SCSKの第3四半期累計実績190億円について、一過性利益の影響など、教えてほしい。

累計実績190億円には、クオカード譲渡に伴う売却益が約120億円含まれている。譲渡先は当社の持分法出資先であるティーガイアであることから、売却益の一部はグループ内取引として当社連結上は消去される。その他の連結修正の影響も合わせると、当該譲渡による当社連結業績への影響額は約+60億円。なお、一過性を除いた通常損益では、開発費用の先行等の影響により前年同期比でやや減少。

### マダガスカルニッケル事業の操業状況と今後の見通しについて教えてほしい。

第3四半期までの操業率は60%程度。本年1月にサイクロンの影響で操業を停止したものの、工程内の在庫を使用し、操業率にして20%程度のニッケルが生産出来た。足元ではまさにランプアップ中だが2月は40%強の操業率への回復を見込む。3月は70%強を目指しており、結果として第4四半期は50%弱の操業率を見込んでいる。加えてコスト面では、コバルト価格上昇により2017年通期のキャッシュコストは3.83ドルとなり、特に第3四半期は3.26ドルまで改善している。

また本年1月にパートナーであるシェリットが、2018年の生産量を4万~4万3千トン、操業率を60~70%、キャッシュコストを3.0~3.5ドルという見込みを公表しているが、シェリットは12月決算であるため、本年1月の操業停止を加味したものとなっている。一方当社は3月決算であり、来年度は当該影響が反映されないため、シェリットの公表数値よりも多少良くなると見ている。なお、ストラクチャー変更に伴い、当社は昨年12月から47.7%の出資比率で持分損益を認識している。

### チリ銅・モリブデン事業の状況を教えてほしい。

足元の銅価格は想定価格を超える水準で推移しており、持分損益は年間見通し△30億円から改善する見込み。また、モリブデンの実収率が安定してくるなど操業は順調。

一方でキャッシュベースではまだ赤字であり、2017年の追加拠出額はプロジェクト全体で280百万ドル、当社持分ベース38百万ドル。ただし前年の追加拠出額はプロジェクト全体で500百万ドルであったことを踏まえると、操業の安定と銅価格の上昇により金額水準は改善してきている。今後、鉱石処理量の増加も検討しており、コスト削減を図ることで早期にブレークイーブンを達成したいと考えているが、具体的な時期は未定。

### ボリビア銀・亜鉛・鉛事業の生産量について、足元の状況と見通しを教えてほしい。

2017年度の実績は、亜鉛・銀は鉱石品位・実収率の低下により期初予想を下回る一方で、鉛は鉱石品位・実収率の上昇により期初予想に対し若干上振れる見込み。今年度は高品位エリアを採掘しているが、来年度は鉱石品位の低下から生産量はやや減少する見込み。

### ブラジル鉄鉱石事業の生産状況について教えてほしい。

第3四半期の持分出荷量40万トンに対し、第4四半期は50万トンと増加を見込んでいる。港湾の完工遅延があったが、使用条件が整ったことに伴い、第3四半期から本格的に輸出を再開している。年間出荷量も、当初計画の110万トンから、直近では140万トンと見込んでいる。

以上